

会議録

会議の名称	第1回 西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会
開催日時	平成22年8月24日 15時00分から16時50分まで
開催場所	保谷庁舎 別棟会議室A・B
出席者	委員：長谷川委員、伊藤委員、大木委員、富岡委員、貫井委員、柴田委員、臼井委員、梅澤委員、櫻井委員 オブザーバー：東京都農業振興事務所 小澤農政係長 事務局：萱野産業振興課長、宮坂主幹、稲船主事
議題	1. 開会 2. 依頼状交付 3. 委員自己紹介 4. 事務局紹介 5. 会長および副会長の選出 6. 議題 (1) 推進委員会の運営方法について (2) 推進委員会の目的と役割について (3) 西東京市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン概要等について (4) 平成22年度スケジュール等について (5) その他
会議資料の名称	資料1 西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会委員名簿 資料2 西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会設置要綱 資料3 西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会傍聴要領(案) 資料4 西東京市市民参加条例(抜粋) 資料5 農業・農地を活かしたまちづくり事業 参考 西東京市おでかけマップ 西東京市産直野菜レシピ 西東京市農業振興計画(中間の見直し)
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1. 開会</p> <p>2. 依頼状交付</p> <p>○萱野課長： 市長の代行として各委員へ依頼状の交付を行う。</p>	

3. 委員自己紹介

○大木委員：

JA東京みらい保谷支店 指導経済課長をしています。

○貫井委員：

西東京市農業委員会 会長をしており、果樹農園を経営しています。

○富岡委員：

中町で農業体験農園を運営しています。

○伊藤委員：

武蔵野大学環境学部環境学科で建築とまちづくりについて教えています。

○長谷川委員：

東大農場の農場博物館でボランティアをしています。

○柴田委員：

東京都農業振興事務所農務課長をしています。

○臼井委員：

西東京市都市整備部まちづくり総合調整特命主幹です。

○梅澤委員：

西東京市みどり環境部みどり公園課長です。

○櫻井委員：

西東京市教育部教育企画課長です。

4. 事務局紹介

○事務局：

本委員会の運営は、西東京市生活文化スポーツ部産業振興課の萱野、宮坂、稲船で行います。また、オブザーバーとして、東京都農業振興事務所小澤農政係長に出席していただいております。資料作成等の運営補助としてパシフィックコンサルタンツ株式会社に協力していただいております。

5. 会長および副会長の選出

○事務局：

本委員会の会長および副会長の選出を行いたい。立候補の方いましたら挙手を願います。いないようならば、事務局案として会長を学識経験者の伊藤委員、副会長を貫井委員にお願いしたい。

○委員全員：

事務局案で了承。

6. 議題

推進委員会の運営方法について

推進委員会の目的と役割について

○事務局：

資料2 西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会設置要綱、資料3 西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会傍聴要領（案）、資料4 西東京市市民参加条例（抜粋）について説明。資料4については、事務局は発言者の発言内容ごとの要点記録と会長、副会長以外の委員の名前は記載しないことを提案。

○会長：

資料2、資料3の内容について異議がなければ案を採用する。資料4については、異議がなければ事務局案の（2）を採用する。

○委員全員：

了承

西東京市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン概要等について

○事務局：

資料5 西東京市都市と農業が共生するまちづくりモデルプランの概要について説明。

平成22年度スケジュール等について

○事務局：

委員会および部会のスケジュール（案）について説明。

本推進委員会においては、実施計画を作成し、進行管理をするに当たって、西東京市都市と農業が共生するまちづくりプランの中から地区別に内容を吟味して調整をしていくことが求められている。このため、設置要綱の第8 地区別の部会の設置に定めるように部会をおき、また部会の組織等に関しては会長が別に定めるという内容になっている。地区別モデルプランの内容を吟味して、具現化可能なプランとして作成していくためにはコアエリア1箇所、サテライトエリア3箇所の計4箇所について個別に部会を同時開催することも検討したが、実施計画策定に要する期間や委員数の面から考えてもあまり得策とは思えない。そこでモデルプラン策定時に声かけをさせてもらった農業者の中から具現化の可能性が高いと思われる農業者がいるエリアから今年度は優先的に部会を設置することを提案したい。部会の設置数については、2箇所で開始したい。その他のエリアについても今後の進捗状況に応じて、今年度途中もしくは来年度、必要に応じて設置をしていきたいと思う。部会の内容については、進捗状況によって随時対応をしていければと思う。また、部会の組織については、基本的に市域内の農業全般に詳しいJA東京みらい、JA東京あぐりの委員、当該エリアの農業者の方々の計5名程度で構成してはどうかと思う。また、必要に応じて会長、副会長にもオブザーバーとして参加していただければと考えている。

○会長：

西東京市のまちづくりモデルプランの特徴として、複数の事業の連携や複数のエリアで相乗効果を図った形の事業を目指す事が考えられる。資料5の基本的な1エリアのモデルパターンというのは、1つの事業を4年間で実施するという事で、1年目では実施設計、2、3、4年目の事業着手の際の経費が3,500万円、中間で3,000万円、完了時が3,000万円となる見込みであり、1つのハコモノをつくる時の事業費として捉えると非常に合理性のある配分になっていると思う。しかし本事業の特色が各エリアで連携をしながら、中核施設をつくるという考えなので、実施設計自体が1年目のみで終わるということでもないだろう。今年度の部会の設置は2つという提案については、2年目以降の残りの部会の実施計画や実施設計が進行していくことを考えると費用は現在挙げられている2~4年目の比重が高いものではなく、3~4年目で比重を高くなるということが実際に起こるのではないか。

○委員：

部会の設置をエリアごとに行うということだが、西東京市全域で事業に係りたい農家の公募を行い希望者を募るのか、もしくは保谷駅北部エリアと田無駅南部エリアの中で候補農家を絞るのか。どちらの方法で行うのか教えてほしい。

○事務局：

昨年度のまちづくりモデルプラン策定時に、東大農場を含めた地域の農業者の方々に本事業の趣旨について説明をさせてもらっている。その時点ではプランがまだ素案の段階だったので、今ほど具体的な話をする事ができなかった。農業者の方々からはっきりと協力の返事はいただいている状況ではあるが、例えば田無駅南部エリアでは植木のオープンガーデン、保谷駅北部エリアでは花の摘み取り農園、体験農園、援農ボランティアの養成農園といったある程度具体的なものを考えている。また、田無駅南部エリアでは、既にオープンガーデンに近い取り組みを行っている農業者の方もいるようで、事業費が少額でもスタートできるのではないかと思う。農業者の方々との話の中で、田無駅南部エリアや保谷駅北部エリアでまず取り組んでみてはどうかと考えた。また、この2つのエリアの部会の進捗状況を見ながら保谷駅南部エリアについても対応をしていきたいと考えている。

○副会長：

部会のメンバーはある程度人数を限定して、対象エリアをどのようにしていくのかというたたき台をつくるものだと理解しており、本委員会では、部会で検討されたたたき台の検討を諮る場である。まちづくりモデルプランの大きな考え方としては、4つの地域の中にコアエリア1つとサテライトエリアを3つ設けて事業を展開するという事である。それに基づき単年度で3,000万円くらいの事業を具体化して運営していく。個人的には東大農場の整備が一番大きな事業になってしまうかと思う。会長もそれを懸念して4年目が一番事業費の比重が高くなると言ったのではないか。事務局提案の部会の進め方で良いとは思いますが、東大農場との協議も早々に進めていかなければいけないと思う。

○会長：

昨年度のまちづくりモデルプランはあくまでもモデルプランであって、あらゆる可能性を検討しているものかと思う。昨年度の活動の中で、事務局が中心になって各エリアの農業者の方々に声かけをして、その中でも可能性のあるエリアからスタートをするということが必要だと思う。そして、その内容を踏まえて今後別のエリアでも部会を今年度中に立ち上げる必要が出てくる可能性もある。

部会の組織については、人数を絞って対象エリアの農業者の方々に参加してもらい進めていくという話だが、JAからは部会の組織について何か意見はあるか。

○委員：

担当管内であれば差し支えない。

○会長：

是非積極的にお願いしたい。

○会長：

その他組織の構成について何か意見があればいただきたい。

○会長：

事務局提案の2つのエリアで部会を開催し、対象エリアの農業者の方々に協力してもらい進めていきたいと思う。部会の進捗状況については、次回委員会で事務局より状況説明をしてもらいたいと思う。

○委員：

2つのエリアで先行的に部会を立ち上げるということだが、この事業の性格上1年目にソフト事業で実施計画をつくるので、他のエリアについても時期はずらしたとしても今年度内に実施計画をつくらないと難しいのではないか。

○事務局：

先行的に2つの部会を立ち上げるが、今年度中に部会が3つになる可能性もあり、後ほど今年度のスケジュールについて紹介させてもらうが、第2回推進委員会に向けてある程度事業計画案を東大農場と調整をしながら実現可能なものを盛り込んでいく予定である。また、3つ目の部会のエリアについても内容を盛り込んでいく考えである。来年度以降については、来年度の実績を再来年度に反映して実施計画をしていくことで対応していこうと考えている。

○会長：

東大農場についてはキャンパス整備計画を9月に行うという話があったが、その計画が見えてきた段階で協議が進むかと思う。保谷駅南部エリアについても部会として立ち上げる前に対象エリア内の農業者の方々と話し合いを進めていく。

○事務局：

推進委員会と部会を並行して行うために、別紙のようなスケジュールを想定している。また、援農ボランティアの活用と更なる充実を図るべく今年度援農ボランティアの

追跡調査を行っていきたいと考えている。追跡調査の結果次第で、農家との橋渡しが出来るような事業や、援農ボランティアのスキルアップができる農のアカデミー体験実習農園の整備等の事業を行いたいと考えている。また、本事業のPR活動の一環として、農業フォーラムの開催を予定している。具体的な開催時期については3月の上旬としているが、前倒しで11、12月になる場合もある。フォーラムの内容等については今後検討をして詰めていきたいと思う。

○委員：

部会について改めて確認したい。保谷駅北部エリアと田無駅南部エリアの2つをまず先行して部会を立ち上げ、様子を見ながら他のエリアについても今年度中に着手をするということでのいいのか。

○副会長：

先程他の委員から話があったように、とりあえず2つの部会を立ち上げ、コアエリアと他のサテライトエリアの検討も進めていかないと、今年度の事業として成り立たなくなるので、部会は立ち上げながら事業を行っていくと認識している。また、保谷駅南部エリアと東大農場は部会を立ち上げないが、計画自体は進めていき、9、10月に部会が立ち上がる可能性もあるということでのいいのか。

○事務局：

その通りである。部会として立ち上げるのは保谷駅北部エリアと田無駅南部エリアの2つである。スケジュール表に第2回推進委員会の日程を12月と記載しているが、この間に第1、2回の部会を行うことになっており、進捗状況によって推進委員会を繰り上げる可能性もある。

○会長：

農業フォーラムに関しては、委員の方にどのような係りが出てくるのか。今の段階で何か計画はあるのか。

○事務局：

今のところまだ決まっていないが、詳細が決まり次第連絡したいと思う。

○会長：

最後に本日の委員会の感想を1人ずつ述べてもらいたい。

○委員：

色々なエリアが出てきたが、そのエリアの特徴についても自分なりに足で確認していく必要があるように思う。2つの部会について、誰がどのように係っていき、所属はどのようになるのか再度確認したい。

○事務局：

現在西東京市内には2つのJAが存在しており、JA職員が本委員会に参加していただいでおり、これにエリア毎の関連農家さん2~4名程度で部会を構成したいと考えている。

この部会には必要に応じて本委員会の会長、副会長にオブザーバーとして参加してもらうことになり、合計9名程度となる予定である。

○会長：

大木委員はJA職員ということで、部会にも参加してもらうことになるが、他の委員の方々は部会での内容を客観的な目で見えていくことになるかと思う。庁内から参加している委員で都市計画、公園緑地、教育の方々がいるので、それぞれの立場からコメントがいただければと思う。

○委員：

都市計画分野で関係してくるのは恐らく東大農場関連のまちづくりのスケジュールになるかと思うが、東大とはまだ具体的な計画を協議しているところで、いつまでに話が決定して整備を開始するか等は今のところはっきりしていない。本事業とのスケジュール調整が上手くいくかが気になっている。時期がはっきりしていないことが課題と言えるのではないか。

○会長：

東大農場の計画ということで、市の事業の話が主体にはならないかと思うが、都市計画道路は市道で良いのか。都市計画道路は計画のネックになるかと思っていたのだが。

○委員：

現時点では都市計画の事業認可が未だ下りていないので、年数がかかることが見込まれる。東京都が行う事業なので、市としては具体的なスケジュールを述べるのは難しい。事業認可を取って、用地買収をして整備を行うことになるかと思うので、時期がネックになる可能性はあるかと思う。

○会長：

都市計画道路の整備が進む前に東大農場内の施設整備が進むのは、手続き上何か問題はあるのか。

○委員：

東大の方である程度、都市計画道路と並行してキャンパス整備を進めたいという考えは持っているようだ。しかし、出入り口をどこに整備するのかという問題が出てきてしまい、最初に整備を行っても、場合によっては南（現況の出入り口）からという可能性もある。

○会長：

都市計画道路よりも先に整備が進むことも充分あり得るということか。

○委員：

可能性としてはあるかと思う。

○事務局：

東西両方向が供用開始にならなくても、片方が開けばトラックの出入は可能なので搬路ができるかと思う。キャンパス計画はキャンパス整備の際に出来る限り前倒しで進めてほしいと思っている。これらについては今後東大と調整を図っていきたいと思う。また、以前東大へは説明を行っているが、何度か具体的なモデル案を東大側に伝えることによって、キャンパス整備計画の中に敢えて盛り込んでいただきたいと思う。このようなスケジュールを検討しておいた方が反映される可能性が高いのではないかと思う。

○副会長：

新所沢街道の整備は西の方から進めて、東久留米市は終わっているようだが、次は西東京市の方の整備を行うと考えて良いのか、分かる範囲で教えてほしい。

○委員：

東久留米市の次は西東京市という前提でいるはずだ。西東京市については東大農場のキャンパス整備の都合もあるので、それに合わせて整備を進めていきたいという考えを東京都も持っているようだ。

○委員：

公園緑地関連の事業内容からすると、本事業との整合性のあるものは少ないかと思う。本委員会の中でできる限りお手伝いできることをやっていきたいと思う。現在、公園の落ち葉の堆肥化を事業として行っているが、活用する場所が限られているのと、施設自体もあまり大きくないので、現状ではあまり思うように使われていない。また、市内約200箇所の公園で、ボランティア団体の西東京市花の会で花いっぱい運動を行っており、直売とは直接結びつかないが、今後のために本委員会で勉強していききたい。

○委員：

学校農園等で地域の農業者の方々と連携を取っているが、ある程度部会で具体的な検討を詰めた上で、状況によっては学校等で情報公開をしてもらい具体的な計画に反映させていきたいと思う。主体は学校で、委員会から提案できることがあれば提案していききたい。

○委員：

農業者として、今年度部会を立ち上げる保谷駅北部エリアではどのような人選を行っているのか教えてほしい。

○事務局：

保谷駅北部エリアに関しては、野菜の体験農園、花の摘み取り農園、観光農園として4軒の農家へ声をかけている。保谷駅南部エリアに関しては副会長、委員を含めた農家を予定しており、田無駅南部エリアについては、自転車道近隣の植木農家を何軒かあたっている。現在既にオープンガーデンのようなものを取り組んでいる植木の事業者がいるが、常に人がいるわけではなく、空き缶等のゴミの投げ込み問題もあり改善しなくてはならない課題がある。

○委員：

エリア毎にこれから説明会を開き希望者を募るのは時間的に大変かもしれないが、未だ本事業の情報を知らない人も多数いるかと思うので、広く周知してあげて、参加者を絞っていくべきではないか。

○事務局：

現時点では、農業委員の方々から一定の面積や体制を考慮して農家を推薦してもらった。ご指摘の通り、情報が周知されていない可能性もあるので、農業フォーラムがスケジュールより前倒しで開催できれば、広く色々な方に周知できるのではないかと思う。

○委員：

農業者に構想があればいいが、ある程度は事務局で形をつくっておくべきかもしれない。農業者には農業者なりの考え方があるので、その点を打破しなくては事業がなかなか先へ進まないかと思う。

○事務局：

事務局としても生活者に農地の多面的な重要性を伝えて、都市型農業・農地に対する理解を深めてもらい、今後につなげていくということで進めている。しかし、生活者にとって農地を所有している農家側が喜んで出来て、営業に役立ち、生業に結びついて農業が魅力的にならないと継続することは難しい。「光る農業」を目指していけるような内容を検討していきたいと思う。事務局側の考えだけでは偏ってしまうので、農家の方々からも具体的な案を事務局へ伝えてほしいと思う。

○委員：

なかなか農家自体がそこまで考えられるかわからないが、参考となるような成功事例を紹介してもらい、そういうのを組み合わせで取り組んでいける良いのではないか。一番大事なのは、農家が生業として儲かっていかなければならないので、その為には周りの市民が消費者として良かったと思えることが大事である。そういう事業パターンをいくつか用意しておいて具体的な話を検討していくのが良いのではないか。

○委員：

本事業を展開する4年間以後、農業者が継続していけるようなものを考えていかなければならない。補助のある4年間は簡単かもしれないが、5年後からは誰がサポートするのかということでは農家も困ってしまうと思う。5年目に収益が出て続けられるというものでなければならない。実際、公共事業で金銭的な補助がなくなってから頓挫してしまった例は沢山ある。農家のやりたいことをやらせてあげたいと思う。

○会長：

農業者への声かけについては、第1回部会の準備、部会開催時に声かけの方法等で検討していきたい。具体的に事業内容が農業者と市民に有益であるということが本事業の目的となるかと思う。次回の推進委員会の開催が12月ということで、時間が少々ひらいてしまうが、9月から11月に開催する部会のスケジュールが気になるころである。モデルプランの主旨に沿うことが一番大事なので、具体的な案が部会で展開できればと期待している。

○事務局：

次回推進委員会の開催 場所と時間については、後日お知らせする。推進委員会は1時間30分から2時間を予定している。